

胆石の話

胆石とは、“胆管”のどこかにできる結石のことです。胆管は、肝臓でつくられた胆汁を腸（十二指腸）に流す通り道で、結石のできる場所によって、肝内結石（肝臓のなか）、総胆管結石（肝臓と十二指腸の間）、胆嚢結石（胆嚢のなか）と呼んでいます。8割ほどが胆嚢にできるため、胆石といえば胆嚢結石のことをさしていることが多いです。

今回は胆嚢結石についてお話いたします。胆石は、胆汁中に含まれているコレステロールやビリルビンが沈殿・析出して固まったものです。泥砂の塊の様なもろいものから石のように硬いものがあります。形は丸や楕円形、多角形、金平糖状などいろいろです。大きさも砂粒のようなものから数cmと様々です。

主な症状は、右上腹部痛や違和感です。発作期には激しい痛みがあり、吐き気や嘔吐を伴うことがあります。症状は、脂の多い食事をした後に起きることが多いのが特徴です。胆石に感染が起ると、胆嚢炎・胆管炎となり、発熱があります。急に悪化することがある病態ですので、早急な受診と治療が必要となります。

胆石の診断は、腹部超音波検査がよく行われます。腹部超音波検査で観察が難しい場合や手術を行う時は、CT検査やMRI検査を行います。

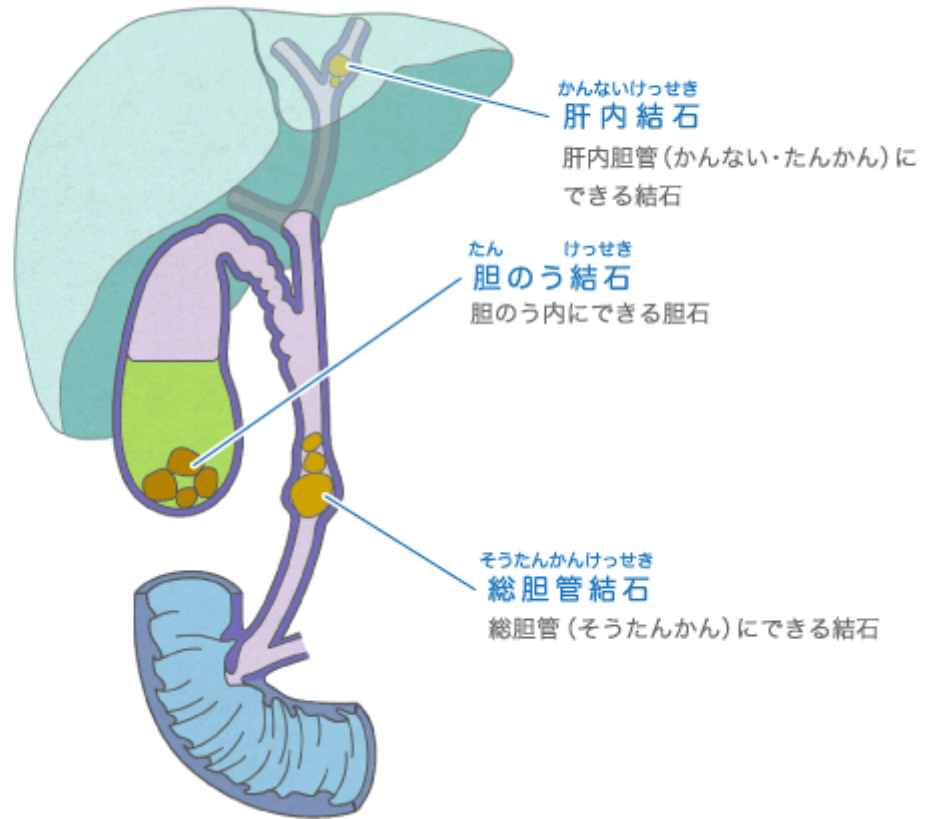
症状がある場合には、手術が推奨されています。症状がない場合には、経過観察となりますが、3cm以上の大きな結石、10mm以上のポリープ合併、胆嚢壁肥厚、充満結石がある場合は、胆嚢癌のリスクがあるため手術が推奨されます。

胆石（胆嚢結石）の手術は、胆嚢ごと切除する手術を行います。腹腔鏡下胆嚢摘出術が第一選択となります。高度の胆嚢炎や胃・十二指腸に手術を行った事があり、炎症や癒着で腹腔鏡手術が困難なことが想定される場合は、開腹手術を選択することがあります。

内服薬による胆石溶解や体外衝撃波による治療は、石灰化のないコレステロール結石で大きくないものに適応があります。しかし、再発が多くみられること、腹腔鏡下手術が一般的となり手術侵襲が軽減していることから、現在あまり行われていません。

腹腔鏡下胆嚢摘出術は、おへそと上腹部の4カ所の小さな創から、腹腔鏡で観察しながら、細長い道具を使って手術を行います。当院では、さらに手術侵襲軽減、創痕をへらすために、おへその創と小さな創1カ所で行う手術も導入しています。外来を受診された際にご相談いただければと思います。

【胆石<胆のう結石>のできる場所】



中外製薬ホームページ (<https://www.chugai-pharm.co.jp/index.html>) より

【副院長兼外科診療部長 森永 暢浩】

